



2019年1月9日

各位

会社名 株式会社 コックス  
 代表者名 代表取締役社長 寺脇 栄一  
 (コード番号: 9876 JASDAQ)  
 問合せ先 取締役財務経理本部長 細川 武志  
 (TEL: 03-5821-6070)  
 当社の親会社 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号: 8267 東証第1部)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年2月期(2018年3月1日~2019年2月28日)の通期業績予想について、2018年4月11日に発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 2019年2月期(2018年3月1日~2019年2月28日)連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,750	200	330	10	0.36
今回修正予想 (B)	19,300	△1,380	△1,200	△1,690	△61.27
増減額 (B-A)	△1,450	△1,580	△1,530	△1,700	—
増減率 (%)	△7.0	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2018年2月期)	20,055	△414	△261	△716	△25.98

## 2. 修正の理由

当期は、オケージョン対応を強化し、スプリングコートを中心に、アウター品揃えを強化し臨んだ3月度の売上は、計画どおり推移したものの、4月度以降は不安定な気候変化に対応できず、更に、6月の大阪地震、7月の西日本豪雨などの自然災害が集客に影響したこともあり苦戦しました。4月度以降の売上高計画乖離により、前年より高い水準であった期首在庫の消化が計画通り進まず、商品回転が悪化し、滞留在庫の早期処分を進めた結果、売上総利益率が計画を大きく下回りました。その結果、第2四半期累計期間において、売上総利益率が51.1%と前年より3.6ポイント悪化し、第2四半期の業績悪化に影響しました。第3四半期以降においても、自然災害の影響や、想定以上に気温が高く推移したこともあり、秋冬商品の売上が計画から大きく乖離しました。

以上の結果、第3四半期累計期間において売上高の計画乖離と、それにより過剰となった商品在庫の値下げ販売により、売上総利益率は計画を下回り、52.8%と前年同期より2.6ポイント悪化しました。販管費は当初計画から削減したものの、売上高及び売上総利益率の計画乖離が大きく、公表数値を下回る見通しとなりました。

当期の業績悪化は、年度を通じた不安定な気候変化の外的要因はあったものの、それに対して、修正できなかったマーチャンダイジング、売場編集、プロモーションなど、自社の対応力が不十分だったことに起因しております。

2019年度に向けて、商品面では、商品決定プロセスを見直し、値下げ販売の削減に取り組むとともに、調達先や物流を見直すことで、商品の調達コストの低減に着手しております。また、売場鮮度を高めるために、適正な商品在庫で販売期間を短くして、商品の回転を高めていきます。商品在庫についても、今期末において、冬物商品の消化を進め、適正な在庫金額となるようコントロールしております。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上